

クント・インタラタイ 著

日本人は アジア人か

タイ人のみた日本人

クントン・インタラタイ 著

日本人は アジア人か

タイ人のみた日本人

〔著者略歴〕

一九四一年タイ国ピジット県に生まれる。国立カセサート大学経済学部卒業後、日本文部省留学生として、慶応義塾大学大学院に学び、経済学修士号取得。ひきつづきタイ国政府奨学金で、米国イリノイ大学大学院経済学部へ留学し、経済学博士号取得。その後、母校カセサート大学経済学部助教授を経て、一九七六年に来日。東京大学、横浜国立大学、上智大学、法政大学で非常勤講師を勤め、現在、京都精華大学教授。著書に「アセアンと日本」「日本と東南アジアのあした」「タイ発展への道」(タイ語)などがある。

© Khoontong Intarathai, 1986

日本人はアジア人か

昭和61年12月25日 初刷印刷

昭和61年12月30日 初刷発行

著者 クントン・インタラタイ

発行者 鶴岡隆巳

発行所 株式会社 学生社

(〒123) 東京都足立区鹿浜3-27-14

電話 03(357)3031(代表)

振替・東京 1-18870 番

まえがき

一般に、人間の最初の記憶は、いつごろのものだろうか。私の場合、三才の頃に自分の生まれたタイのピジャト県で、アメリカ戦闘機が爆弾を落としたことを覚えている。その時私はバンコクの日本軍隊の基地で、大工として三年も出かせぎをしていた。こういう意味において、私は小さい時から日本と間接的に縁があった。そしてそれからおよそ二〇年後、私は留学生として日本にやってきた。そして日本が、私のセカンドホームになった。

最近よくタイにもどるが、しばらくすれば日本に帰らなければなくなる。その時心の中で、いったい私はどこの国の人間であろうかと考える。タイ人なのに、住居は日本にある。なぜ国と住居が違ふのだろう。私にとって、日本は自分のホームで、タイは母国である。

タイも日本も同じアジアにあるので、ただ二国だけではなく、アジア全体を考えなければならぬ。世界は一つ、どの国民も同じである。しかしアジア人がアジアの土地を大切にしなければ、

誰がこれを大事にしていけるのだろう。アジアの国々には、大昔から文明が興り、世界にさまざまな分野で貢献した。しかし四〇〇年位前から、多くの国が不幸な歴史を歩んできた。現代では日本などの経済的な高度成長によって、アジアの世界的な地位が次第にあがってきた。二一世紀には、もっと明るい将来が期待できる。

アジア人の問題は、お互いの関心が薄いことである。日本は経済大国になったが、日本人は本当のアジアの一員かどうか疑問である。この本では日本と他のアジアを比較し、それについて述べてみようと思う。そして日本と他のアジアの相異点はどこにあるか、どうして日本がアジアの中で群を抜いて工業化がすすんでいったのか。また、日本人が他のアジアからどのように見られているのかについても考えてみたい。

それから、私が小さい時から現在まで、どのように日本を見てきたかを述べてみたい。一般的に、西洋人が日本人に対して書いたものは多い。日本人も彼らの意見をよく聞くようにみえる。この時代の流れの中で、同じアジア人が日本人についてどう考えているのかも、聞く必要があるのではないだろうか。

私はアジア人を代表するつもりはない。そして私の方法論は、他の学者の本や論文を読んで生まれた意見ではなく、自分の経験から結論を生み出すことである。

私は、どこの国にもいい人もいれば悪い人もいると考える。そしてそこから私なりの客観的に

日本を考えたい。私の日本人批判を、日本人が聞いてくれれば幸いである。また私の執筆で、日本と他のアジアが友好関係を保ち、世界が本当に繁栄し、平和になれば非常に嬉しく思います。

一九八六年十一月

クントン・インタラタイ

目

次

一 日本はアジアか？

- 近代化した日本 13
- 全部が中流階級 15
- アジアの二重構造 18
- 均質化した日本 20
- 生活水準を考える 24
- 日本語の特殊性 28
- 四季と勤勉 31
- 日本の宗教 34
- 外国人のみた日常生活 38

二 パターン化した日本人

- お茶と飲み物 40
- 日本文化における茶道 41
- 酒のみの日本人 42
- 食事——目の文化 43
- 水は冷たい 46
- 寝ることとフトン 48

三

實際的な日本人

日本人のスポーツ	50
交通	54
旅行好きの国民性	59
休暇のとり方	62
買物のパターン	66

名刺の交換 71

お弁当 74

読書好きの日本人 75

日本の新聞 83

テレビの影響力 85

ビデオの普及を考える

日本人の娯楽 96

93

四

日本の人間関係

強く意識する結婚 102

日本独特の結婚式 107

五

日本の近代化の中身

結婚生活	110
高い教育レベル	116
学校制度の弱点	123
日本の大学	128
日本の学生生活	135
日本の会社員	139
平均寿命	142
日本の治安と交通事故	145
老人問題	147
脱アジア	150
和魂洋才	153
東洋文明と西洋文明	156
アジア人蔑視	158
日本人としてのアイデンティティ	162

六

なぜアジアで日本だけが

近代化できたか

アジアの中の日本 167

日本の国民性 173

留学生にみる違い 175

日本の経営 178

東南アジアの近代化 185

南アジアの近代化 186

中東の近代化 189

アジアの社会主義国 191

日本の近代化とは 193

七

アジア人からみた日本人

日本人とは？ 197

日本人の理解しにくい点 200

日本の男性 204

日本人と結婚したアジアの女性たち

日本人らしくない日本人 209

日本の家族関係と家庭生活 210

留学生の不満 212

アジア人の指摘する日本人の欠点

日本人はアジア人に戻れるか 221

スミーズにいけない原因 223

アジアの伝統的価値観 229

あとがき 232

日本人はアジア人か

一 日本はアジアか？

近代化した日本

私はこの十年間、日本で仕事をしている。ときどき、タイをはじめとする他のアジア諸国へ行く機会があり、成田や大阪空港に戻ってくると、日本は本当に、他のアジア諸国とちがって、近代化が進んでいると痛切に感じる。物質的進歩だけでなく、入国管理、税関の取り調べ方やバスや電車、メーター制のタクシーなどがシステム化されている。

他のアジア諸国では、税関にワイロを払わなければならない場合もあるし、タクシーにはメーターがない国もあるので、値段の交渉など現地の言葉がわからないとたいへん不便なことがある。ある国では、メーターがついていても、どこに連れて行かれるのかわからないといった不安もある。成田から東京都内まで電車に乗って沿線を見ると、丘や木々の緑が美しく、町はどこも清潔である。日本はある程度まで自然を保護していることがわかる。

都内に入ると、だんだん近代的な建物が次から次へと目に入るが、その中で、他のアジア諸国

ではあまり見られないのが工場である。日本では、ほとんど全国くまなく、工場を見かける。他のアジア諸国では、大都市でしか工場を見ることができない。たとえば、タイの工場の約八〇％は、バンコクとその周辺に集中している。

また、日本を訪れる外国人旅行者の多くがもつとも驚嘆することは、日本のデパートの立派さだ（物が多く、きれいにディスプレイされ、従業員がきれいな服を着て、ていねいに、心からお客さんにサービスする）。その上、さらに驚くことは、デパートで売られている物のほとんどが日本製だということだ。他のアジアの国々では、ほとんどが外国製で、しかも、日本製が多い。日本の会社はほとんど日本名であるのに、他のアジアでは、外国資本が多く入っているため、外国名の会社が多い。どれひとつをとっても日本の経済力のすごさを見る思いである。

それに、ほとんどの日本人が、自分の民族の会社で働いていることも驚きの一つだ。その会社がかれば自分ももうかり、日本全体ももうかるという精神的安堵感がある。同時に、自国の文化環境の下で働ける。

何度か訪れたことのあるシンガポールでは経済発展はたいへん進んでいるが、一般のシンガポール人が働いているのは外国の会社である。そのため外国の会社の習慣やルールを守らなければならない。シンガポールの人口のほとんどが中国人なのに、英語で生活しなければならないというのは、なんとも理不尽なことである。

外国の企業なので、利益があがらないうすぐ従業員を解雇する。私の友人はよく会社を変える。